

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

ふるさと名物
Furusato Meibutsu



山形県白鷹町
が応援するふるさと名物

紅花 生産量日本一

～日本の**紅**(あか)をつくる町～

◎ **紅花の加工品群**

◎ **紅花の体験観光**



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

山形県白鷹町

地域の
プロフィール

地 勢

白鷹町は山形県南部の置賜盆地の最北部に位置しており、最上川が町の中央を南北に流れ、白鷹山、朝日連峰、葉山の三方を山に囲まれた盆地を形成しています。朝夕での寒暖差が大きく、紅花の花弁が離れ摘みやすくなる「朝露」が発生し易いため、紅花栽培に適した気候となっています。

また、国道の整備が進み、県都山形市までは車で30分、仙台市方面との交流も年々盛んになっています。

地域の素材をいかした「地域づくり型観光」を推進しており、中でも花摘み体験などの体験型観光や、紅花に関わるイベント、商品展開、食文化の発信などに力を入れています。



◆生産量日本一の「紅花」

「紅花の山形」といわれる由縁は、紅花染めの原料である「紅餅」の生産が江戸時代に質・量ともに日本一を誇ったことにあります。この紅花栽培において、白鷹町が置賜領内で最大の生産地でありました。平成27年の山形県全体の生産量は226kg、そのうち紅餅88.2kg、乱花53.8kg、計142kgを収めた白鷹町が県全体の約6割を占めました。

紅花(紅餅)は、米の100倍、金の10倍という貴重品であり、“300輪で紅花一匁(はないちもんめ)”とは、わずか3.75g(一匁)を採取するために約300輪もの紅花が必要だという、いかに紅花が貴重であるかを言い表しています。

紅花は白鷹町特産の「深山和紙」の油紙に包まれて最上川を下り北前船で京や江戸に運ばれ、鮮やかな紅や衣装とされ時の女性たちを魅了しました。

紅花の用途は主に①観光・鑑賞用(花摘み体験、ドライフラワー)②乱花利用(食品染色、漢方)、③摺り花・紅餅利用(化粧品、織物、紙染め)、④種子利用(油)、⑤葉・茎利用(食用菜、畜産飼料)の5分類ができます。



乾燥される紅餅



紅差し

ふるさと名物の内容～紅花の加工品群～

◆紅餅(べにもち)

紅花の花の色は黄色で、色素の99%は黄色です。残りの1%が紅(赤色)の色素であり、その1%を抽出して本紅や染料の原料となる紅餅などに加工しています。紅餅づくりは、荒振り、中振り、揚振り、花ねかせなどの工程を経て発酵させ、十分に発酵した花弁を餅のようになるまでつき、3cmほどの団子状に丸め、煎餅状につぶし、天日干しをすることで紅餅が完成します。紅餅は一枚約3.75g、花一匁(花いちもんめ)となります。現在、町内では十数名が紅餅を生産しています。

◆白鷹紬(置賜紬)

白鷹紬は約二百年続く伝承紬織物で、紅花で染め上げられた黄色と紅色の絹糸などが優しい色合いで融合した逸品です。白鷹の紬は米沢藩主上杉鷹山公の殖産振興策からはじまったとされ、「置賜紬」として昭和51年に国の伝統的工芸品と認定されました。

「お召」の鬼皺(おにしぼ)と呼ばれる布面の凸凹のシボによる優しい肌触りと着心地の織物であり、「板締緋(いたじめかすり)」という県無形文化財に指定された白鷹にしかない貴重な染め付け技法が特徴です。製織は白鷹独自の「高機(たかばた)」という手織りの織機が使われます。

町内では織元が2か所あり、「小松織物工房」では織物体験をすることができます。



ふるさと名物の内容～紅花の加工品群～

◆深山和紙

白鷹町深山地区で漉(す)かれる「深山和紙」。紅花の花弁を漉き込んだ和紙や紅花染めの和紙もあり、白鷹町の特産品として定着しています。技法は、約400年前から変わることなく、地域へ脈々と伝えられてきました。

和紙そのものの特徴としては、やわらかな風合いと温かみのある質感に加え、強くてしなやかであることです。これは材料の楮(こうぞ)の特性を最大限活かすことで引き出されます。楮の栽培から、刈取り、きざみ、蒸かし、楮はぎ、黒皮干し、楮ひき等、たくさんの工程を経て完成しますが、この工程が県無形文化財として指定されています。

深山和紙は、主に障子紙など生活に密着して使われてきました。卒業証書や表彰状、便箋や葉書、名刺などにも使われ、最近ではモダンなインテリアとしても加工されています。

また、白鷹町深山地内の深山和紙振興研究センターで和紙漉き体験をすることもできます。



和紙すき体験



深山和紙と有機ELを組み合わせた
YUKI ANDON -ゆき・あんどん-



紅花が漉き込まれ
やさしいあかりを照らしています

ふるさと名物の内容～紅花の体験観光～

◆ 摘み取り体験（花摘み猫の手隊）

紅花摘みの時期は猫の手も借りたいほどの忙しさ。毎朝早くから見られる紅花摘みの光景は、白鷹の夏の風物詩となっております。

白鷹町観光協会では7月上旬から下旬までの間、紅花摘み体験として「猫の手隊」を募集しています。



◆ 紅花染め体験

白鷹町では、通年で紅花染め体験をすることができます。

白鷹町十王地内の「紅花の館」と「小松織物工房」にて本物の国産紅餅を使った白鷹町ならではの紅花染め体験ができます。（要予約）

白鷹町の取り組み

◆ 白鷹紅花まつり

平成27年度で第21回目を迎え、町内数か所の会場で開催される白鷹町の夏のイベントです。廃校となった小学校を主会場とし、紅花摘みや紅花染めなどの様々な体験をすることができます。今回は2日間で、県内外からおよそ6,000の方が来場されました。



白鷹紅花まつり

◆ 紅ランチ

紅花の咲き始める7月に入ると、町内の「パレス松風」、「あゆ茶屋」では白鷹産紅花を使った紅ランチを味わうことができます。

紅花の乱花(花弁を乾燥させたもの)や葉を食材として利用しており、天ぷらや和え物など、見ても食べても楽しめるランチとなっています。



紅花を使った紅ランチ

白鷹町の取り組み

◆べにばなアート展「紅花colors」

白鷹町では、紅花生産を県内外にPRするため、東北芸術工科大学芸術学部テキスタイルコースの学生によるアート作品の展示や、紅花染め体験・紅花摘み体験などを企画した「べにばなアート展 -紅花colors-」を白鷹町文化交流センター「あゆむ」にて開催しています。

平成27年度においては、アート展のほか、東北芸術工科大学の辻先生のご紹介により、劇団I'M(アイム)による詩劇「花はくれない」を上演し、紅花生産に携わる方をはじめ、多くの方に鑑賞していただくことができました。

紅花畑を見て摘んで、紅花のアート作品と詩劇を鑑賞して、紅花染めをするという白鷹町でしか味わえない貴重な体験を味わうことができます。



紅花と繭による作品「意識のシェルター」



詩劇「花はくれない」

◆紅花栽培への支援

白鷹町では、紅花生産量日本一を継続するために、町内で紅花を生産し山形県紅花生産組合連合会へ「紅餅・すり花・乱花」を出荷される方に補助金を交付し、紅花生産を支援しています。

また、紅花生産者を対象とした、紅花栽培に関する情報交換や技術向上の研修を行っています。紅花栽培の問題点である連作障害への対策として、土壌改良の方法など、白鷹町では、より品質の高い紅花を出荷できるよう、生産者相互の情報交換を図っています。



紅餅の検査風景



紅花生産者の意見交換会(土づくり)

白鷹町長からのメッセージ



その昔、植物として唯一の赤色を生み出す紅花は、白鷹が置賜領内最大の生産量を占め、紅餅は深山和紙に包まれ最上川を下り京や江戸に運ばれておりました。

今も白鷹が県内産紅花加工品の過半数を占めており、この地が紅花の適地であることを物語っております。

また、紅花の魅力に惹かれ愛着を持って栽培し、見る、食べる、紅餅にと余すところ無くこの花に接する白鷹人がいるからこそ、白鷹が紅花の適地としてあり続けてきたのであらうと思います。

白鷹町は紅花生産日本一を誇る「日本の紅（あか）をつくる町」であり、紅花産業につきましては「生産」と「観光」を両輪として推進してまいります。

今後も日本一の生産地であるために、紅花作付面積の維持、生産者への支援、紅花生産者の新規開拓などに力を入れ、より多くのお客様に訪れていただくことを目指し、「紅花」をふるさと名物として応援することを宣言いたします。

白鷹町長 佐藤 誠七